

雨が降っても、逆にキレイになる！梅雨でも楽しいキーパーコーティング

雨の多い梅雨時期にお客様から、

「予約してあったんだけど雨の日でもコーティングお願いして大丈夫？」
「コーティングしてすぐに雨に濡れても問題ないの？」
というなお問合せを多くいただきます。そんなときは笑顔で「大丈夫です！問題ありません！」と答えてください！

クリスタルキーパーやダイヤモンドキーパーといったキーパーコーティングは、雨が降るとのその強い撥水力で車の汚れを流し、逆にキレイになり、お手入れも楽になります。

実際に施工されたお客様からは、

「雨が降るとキレイになってるから洗車する回数が減ったよ」
「以前に比べて全然汚れなくなったよ」

との感想をいただき、施工後もキーパーコーティングを楽しんでいただいています。

キーパーコーティングは雨でも、晴れの日と変わらない品質で、天気を問わずお客様に喜んでいただき、また施工後のカーライフも楽に、楽しんでいただけるコーティングです。



**雨が降りてもキレイ！
お手入れの時間が作れないという
お客様からメールをいただきました。**

先日、シルバーのインプレッサをコーティングしていただいた〇〇の家内です。フォトログ、拝見しました。本当にそのとおりで、水の弾きが最高だ！と主人が家の中から車を眺めています。それも雨が降ったので、毎日、何度も(笑)。私も時々(笑)。本人にとっては、おそらく最初で最後の新車だし、休日が少なく手入れする時間が作れないので、お願いしてみました。大事に乗っていきたい車なので、丁寧にやっていただいて、本当にありがとうございました。一言御礼が言いたくて、ここに書きました。

夏の洗車に「インセクトリムーバー」

簡単にツルツと！
虫がものすごく
良く取れる！

初夏は、ボディについた虫汚れで来店されるお客様が多い時期。

虫汚れは強い酸を含むものがあり、そのままにしておくと塗装面に跡が残ってしまうことがあります。ボディにこびり付いた虫は、頑固でなかなか落とすことができません。強く擦るとボディに傷が入ってしまうことがあり、とても厄介です。洗車のはじめに「インセクトリムーバー」をスプレーしておくことで、虫が簡単に落ち、洗車の品質が大きく向上し、作業時間も短縮できます。



最初に虫全体にスプレーするだけ！インセクトリムーバーの作業手順

1 最初に、虫が付いている箇所を確認する。

虫が付くのは、主にバンパー、ドアミラー、フロントガラスです。

2 インセクトリムーバーを虫の付いた箇所にスプレーする。

こすったり、洗い流したりしないように注意します。



ボディがうんと熱いときは・・・

予め水をかけて冷やします。ボディが熱いとインセクトリムーバーが乾いてしまい、水を浸透させる効果が発揮できません。



3 ホイールにブレーキダストクリーナー B.D.C.をスプレーして下回りから予備洗浄をする。

この間に、虫をふやかします。



4 ボディ全体の予備洗浄で、高圧スプレーを虫に当てて洗い流す。

これでほとんどの虫汚れが流れ落ちます。

注意

フロントガラス面に飛び石による亀裂等がある場合、ガラス面の亀裂が広がる可能性があるため、高圧スプレーを強く当てないこと。



5 ボディ全体に泡をかけ、ラ・モップで洗う。

ほとんどの場合、これでキレイになります。



6 洗い流す。

もし、洗い流し後に虫が残っていたら、湿らせたキーパークロスで拭き取ります。



洗い流し後も、多量に残るような頑固な虫汚れの場合は・・・

1. 再度インセクトリムーバーをスプレーして、2〜3分付け置きします。
2. その後、ふやけた虫をクロスもしくはスポンジで優しく擦り落とします。



インセクトリムーバーの特徴

インセクトリムーバーは、KeePerと協力関係にあるドイツ最大の自動車専用ケミカルメーカーのSONAXが開発した商品です。虫を取る圧倒的な性能から、ドイツでは多くの賞を獲得した優れた商品です。特殊な浸透剤を主成分とし、虫の死骸に「水」を強力に浸透させて「虫だけ」をふやかします。しかもボディ及び窓ガラスのコーティングに悪影響を与えません。一般的な虫取りクリーナーは、アルカリ洗剤等を主成分とし、虫汚れを分解させて落とします。そのため、コーティング膜自体を多少なりとも分解してしまうのです。



梅雨の時期に「ウインドウガラスフッ素キーパー」の施工ポイント

6月に差し掛かり、梅雨が近づいてきました。雨の日に視界を確保し、強烈な水弾きが楽しい「ウインドウガラスフッ素キーパー」。施工の作業手順とポイントを改めてお伝えします。

作業手順

1 ガラス面の油膜を取り、水気を完全になくす。



2 ウインドウガラスフッ素キーパーを、塗布用スポンジに巻いたティッシュペーパー全体が湿る程度付ける。



3 フロントガラス1/4程度を1スパンとして、タテヨコにまんべんなく塗り込む。1スパンごとに液を足す。



4 乾いたクロスで拭き上げる。



(硬化時間) 拭き上げ後、1時間は水がかからないようにする。

(硬化時間) 塗布後、15分以上放置する。

施工のポイント

1 塗ってから、硬化時間「15分以上」を置いてから拭く。

硬化時間をしっかり取らずに拭き取ってしまうと、被膜がしっかり定着せず、その後の持続期間に影響が出ます。

2 拭き上げ後は「1時間」は水がかからないようにする。

途中で水をかけてしまうと、結合反応が中途半端なままで完結してしまい、初期から水弾きが弱くなり、耐久力も落ちることがあります。どの季節、天候であっても、上記の硬化時間を置くことで、紫外線や酸性雨に対しても強く、非常に高い耐久性を持つウインドウガラスフッ素キーパーができます。